

## 『成長しなくては意味がありません』

高遠宿泊学習に向けての準備が進んでいます。

中島先生が中心になって立案してくれた宿泊学習。桜で有名な高遠町にある『信州高遠青少年自然の家』と長和町の『鷹山ファミリー牧場』での活動は今から楽しみです。

各クラスの班や係が決まり、6月28日には第1回の係会と学年集会が行われました。係会は4会場に分かれて行われました。中でも宿舎・整美係は人数が多く、塩のホールを会場としました。それでも、学年係長の1組の市村君や5組の窪田さんがはきはきと進行をし、クラス毎の話し合いもスムーズにできました。担当の柳澤先生からはクラスの部屋別人数が示され、「担任の先生と相談をして、部屋毎のメンバーを決めて下さい」という指示に、係意識も高まったと思います。

その後の集会では学年の正副係長の自己紹介と抱負の発表から始まりました。学習・レク係の副係長、5組の松田君は「みんなが楽しく学べるようなレクをしたい」と語りました。各係からの連絡では、食事・保健係長、4組の五加さんが「家でカレーを作ってみるといいです。宿舎のバイキングでは、食べ残しが出ないように取り過ぎに気をつけてください」と呼びかけました。

最後に藪先生は「皆さんに大いに盛り上げてほしいですが、何を学習するかが大切です。今回の宿泊体験学習でのキーワードは5つです。規律・協同・責任・奉仕、そして友愛です。自分だけのことを考えるのではなく、周りのために何ができるか考えることが大切です。準備と当日の二日間を通して、自分達が成長しなければ意味がありません」と結んでくれました。

5つのキーワード、意識していきたいですね。

### 係の目標を話し合う宿舎・整美係



### 私たちへの願いを語る藪先生



### 3年生の姿を目に焼き付け、東信大会終わる！

6月22日・23日



- 東信大会がありました。部長と女子の団体は負けてしまいました。ですが、八巻先輩は2位で県大会に行くことになりました。とてもすごかったです。県大会の応援も頑張りたいです。(剣道部)
- 僕は大会には出ないけれど、係役員でした。なので、先輩達が勝てるように頑張る係の仕事をしました。そしたら、先輩達が何度も出ることができました。嬉しかったです。(水泳部)
- 負けて先輩達は引退です。とても悲しいです。でも、先輩達と学んできたことを忘れず、そして3年生のように上手になりたいです。(男子バレーボール部) ~紡ぐより~

## <これからの予定>

日	曜日	1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時	一般下校	部活下校	備考
8	月	C月2	C月1	C月3	C月4	C月5	Bも5	16:15	なし	
9	火	B火1	B火2	B火3	B火4	B火5	B火6	16:30	18:30	
10	水	Bす1	B水2	B水3	B水4	B水5		15:30	18:00	
11	木	B木1	B木2	B木3	B木4	B木5	特	16:30	18:30	学年生徒会 委員会
12	金	行	B金1	B金2	B金3	B金4	Aも5	16:30	18:30	壮行会 宿泊学習係会查
16	火	A月1	A月2	A月3	A月4	A月5	学	16:30	1年なし	結団式
17	水	宿泊学習～18日								

## 今年も来てくれたツバメのお話

今年もツバメが来てくれた。

昨年来たツバメか他のツバメなのかわからないが、車庫の入り口の上にもう数年来ある巣に居を構えた。そして、いつのまにか卵を産み、黒っぽいヒナ鳥がいるらしい気配を感じさせた。

6月の半ばのことだった。

車庫に入り、机の上のタオルを手にとろうとすると、何やら黒いものが動いた。ツバメのヒナだった。机の横に無残な巣の残骸を見つけた。そして、少し散らばってヒナが5羽。そのうちの1羽は動かない。自然に落ちたのか、ネコでも飛びついたのか。

放ってもおけず、近くにあったプラスチックの箱にウレタンを敷き、そのヒナ達を入れる。親ツバメの姿は見えなかった。

数時間後、農作業から帰って覗いてみた。ヒナ達はひとかたまりに集まっている。尾と頭を交互にしているのが面白い。でも、残念ながら1羽だけは離れて動かないままだった。上を見上げると、壁から突き出したボルトに2羽の親鳥がいた。何を思っているのだろう。

夜のことを考えるとそのままにはしておけない。やはりヒナ達の居場所は上にないと野良猫に襲われるだろう。カゴや箱を巣にしてぶら下げようとしたが安定が悪くてだめだ。

ふと見ると、少し離れたところにもう一つ古い巣があるに気づいた。狭くてどうだろうかと思ったが、「まあ入れてしまえ！」とばかりにヒナ達を突っ込んだ。

そして夜。

親鳥が入り込み、ヒナ達を温めている感じだ。もう1羽の親は例のボルトに乗っかり、見守っている様子。これで安心して眠れそうだ。

翌朝、ヒナ達は一列に並んで口を大きく開けてエサを催促。親はかいがいしくヒナの口に何かを入れている。ホッとする光景だ。

犠牲になった1羽は畑のすみに埋められた。

ちょっと切ない気持ちになった。

6月17日の朝のことだった。

いつもいるはずの巣の中は空っぽ。もう旅立ったのだろうか？と一瞬思った。

空を見ていると、車庫の二階のベランダに4羽並んでいる。そして、飛んでみせるぞとばかりに身を躍らせると、低く遅い滑空ではあるが羽を一生懸命動かして空中に自分の存在を示した。

それから数日間は親鳥との飛行練習となったようだ。

そして6月20日の夜。

巣の中には1羽もいない。視線を横にずらすと、蛍光灯につながる線の上に何と6羽留まっている。どれもそれほど大きくはない。あのヒナ達だろう。親鳥はその上のボルトに留まっている。6羽のうち4羽はあのヒナ達。向きを変えている2羽は彼等につられてやってきた新参の鳥たちなのだろう。でも、ここはそんなにも居心地が良いのだろうか。

7月にはいった。いつの間にか、車庫に出入りしているツバメの数が少なくなった。夜、線の上で眠るのは3羽ほどになった。

いよいよ旅立ちかと思った。